◎郡山市水道略年表◎

西　暦	年　号	事　　項
1722	享保７年	皿沼を改修して皿沼水道を整備。
1770	明和７年	細沼西から山水道を整備。
1882	明治15年	**安積疏水通水**、皿沼の水量を増加。
1887	〃 20年	町内有志が多田野水道を計画。
1889	〃 22年	**郡山町となる。多田野水道起工。**
1890	〃 23年	多田野水道完成。
1901	〃 34年	皿沼水道町営を町議会に提出、町議会にて町営を議決する。
1907	〃 40年	**改良水道案可決**。鉄竹案を採用。
1909	〃 42年	**水道布設の起債及びその償還方法の変更に関する議案が今泉久次郎町長の勇断で可決。** **水道布設起債申請許可。**
1912	〃 45年	**4月1日豊田浄水場から給水開始**。浄水場の完成に伴い、皿沼水道及び多田野水道を廃止。
1924	大正13年	第１次拡張事業に着手。**市制を施行。逢瀬川取水県知事許可。**
1945	昭和20年	空襲に備え市内井戸水質検査。空襲により水道施設一部破損。終戦。
1947	〃 22年	戦災復興事業として水道破損修理開始。（～昭和24年）
1950	〃 25年	第２次拡張事業着手。
1953	〃 28年	**地方公営企業法適用、企業会計採用。**
1962	〃 37年	第２次拡張事業完成記念及び50周年記念式典開催。第３次拡張事業着手。 水道新庁舎落成。
1965	〃 40年	**猪苗代湖からの取水について県知事に陳情**。第４次拡張事業着手。**新郡山市誕生。**
1967	〃 42年	第５次拡張事業着手。堀口浄水場着工。
1968	〃 43年	熱海水道拡張事業変更認可。**逢瀬川取水地点分割について東北地建許可。** **深沢川取水県知事許可。**
1969	〃 44年	水道料金口径別料金体系に変更。
1971	〃 46年	**堀口浄水場完成**。水道創設60周年記念式典開催。
1973	〃 48年	**猪苗代湖取水北陸地建許可、南川取水東北地建許可による単独水利権取得**。第６次拡張事業着手。熱海水道拡張事業完成。**浜路取水北陸地建許可。**
1978	〃 53年	専用導水ずい道竣工。
1979	〃 54年	専用導水ずい道通水式挙行。猪苗代湖から取水開始。
1980	〃 55年	第７次拡張事業着手。
1982	〃 57年	水道創設70周年記念事業として水道発祥の地清水池を整備。
1983	〃 58年	**県の斡旋により猪苗代湖からの水利取得について東京電力と合意。２億6,800万円で調印。**
1989	平成元年	荒井浄水場着工。
1991	〃 ３年	水道創設80年記念及び水道局庁舎落成記念式典開催。
1994	〃 ６年	**三春ダム取水東北地建許可。**
1995	〃 ７年	阪神・淡路大震災における災害支援。郡山市水道事業経営審議会設置。
1997	〃 ９年	**荒井浄水場給水開始。**
2001	〃 13年	水道創設90周年記念誌発行。
2003	〃 15年	第７次拡張事業第２期（平成10年度～平成14年度）完了。荒井浄水場の施設能力42,000㎥/日に向上。
2004	〃 16年	新潟中越地震における災害支援。
2005	〃 17年	郡山市水道局キャラクターデザイン愛称決定「きららん」。
2008	〃 20年	第８次事業変更認可、事業費264億円。浄水施設統合事業着手。
2010	〃 22年	『郡山市水道事業基本計画　こおりやまウォータービジョン』策定（計画期間：平成22年度～平成31年度）
2011	〃 23年	**3月11日 東日本大震災**（東北地方太平洋沖地震M9.0）により約37,000戸断水、4月1日復旧。 東京電力福島第一原子力発電所の事故により、水道水の放射性物質モニタリング検査を実施。
2012	〃 24年	**水道創設100周年。**

郡山市水道局

〒963-8016 郡山市豊田町1番4号
TEL(024)932-7643　FAX(024)939-5807
E-mail：suidosomu@city.koriyama.fukushima.jp
ウェブサイト：http://www.city.koriyama.fukushima.jp

紙へリサイクル可
ミックス 責任ある木質資源を支持し支援 FSC® C010137
VEGETABLE OIL INK

猪苗代湖と浜路取水塔

郡山市水道創設100周年

～ 新たな100年に向けて市民の皆さまとともに ～

【創設当時の豊田浄水場】

【現在の豊田浄水場】

きらきら光る　安心な水を　未来へ届けます

郡山市水道局キャラクター
『きららん』

郡山市水道局

郡山市イメージキャラクター『がくとくん』
と妹の『おんぷちゃん』

水道創設100周年を迎えました

文政10年（江戸時代の終わりごろ）、人口4,000人あまりの一宿場町であった郡山が、現在は人口30万人以上の中核市にまで発展した礎は、明治期の安積開拓にあります。

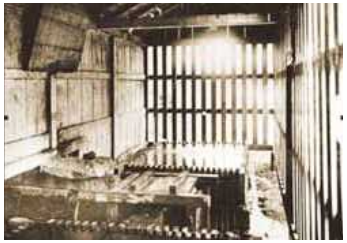
明治11年、政府による士族授産のための国営事業第１号として、安積原野の開拓と、猪苗代湖の水を安積平野に導く**安積疏水**の開さくが始まりました。これらの完成により安積平野に清らかな水が流れ、肥沃な大地へと生まれ変わり、本市が発展していく基礎となりました。

本市の水道は、この安積疏水の恩恵を受け、猪苗代湖を主な水源として明治45年４月１日に県内では初めて、東北では３番目、そして全国では23番目の近代水道として給水を開始し、**平成24年４月１日に100周年を迎えました。**

水道のあゆみ

1　郡山の水道のはじまり…皿沼水道

人口約1,400人の集落を形成していた享保時代になると、井戸水などだけでは飲料水が不足していました。このため、享保７年（1722年）にかんがい用のため池であった**皿沼**を貯水池として、分水槽を作り、各戸へ竹樋を通して引水しました。



皿沼水道分水槽

2　新たな水源を求めて…山水道

皿沼水道は、田植え時期になると水が少なくなるため、明和７年（1770年）に清水台、細沼などの高台に井戸を掘り、自然流下で引水する**山水道**をつくりました。

しかし、引水するためには多額の費用がかかるため、使用していたのは資産家10軒程度で、付近の数百戸はもらい水をしていました。

木管水道時代の中箱、木管、駒頭

3　良質多量の水を求めて（多田野水道）

明治20年（1887年）ごろの郡山町は、製糸業が盛んとなり、人口が増加してきたことから良質で多量の水が必要になりました。そこで、当時の富商たちが資金を持ち寄り「郡山水道会社」を設立。現在の逢瀬町多田野地内３か所から木管約10kmをつないだ**多田野水道**をつくり、明治23年に完成しました。

多田野水道木管

水道発祥の地：清水池

4　近代水道の創設…豊田浄水場

明治30年（1897年）を過ぎると、多田野水道の木管が腐りはじめ、また郡山の人口は急増し、さらに良質で多量の水が必要となりました。

そこで当時の**今泉久次郎町長**が「水道が不備では郡山の発展はありえない」と近代水道の設立を決断し、町の総予算（当時：３万円）の５倍（工事完了時は６倍）の工事費を投じて、**豊田浄水場**を建設し、明治45年（1912年）４月に近代水道として給水を開始しました。

今泉久次郎氏

5　拡張事業から維持管理の時代へ

大正12年度の第１次拡張事業に着手以来、市勢の発展とともに増加する水需要に対応するため、数次にわたる拡張事業を実施してきました。

昭和48年度には、猪苗代湖から直接取水する浜路取水塔と堀口浄水場までの導水施設を整備する第６次拡張事業に着手し、昭和54年度に完成しました。この事業の完成により、現在の本市の水道事業の基盤が確立しました。

猪苗代湖からの導水ずい道

現在は、「浄水施設統合事業」をはじめとした第８次事業を平成20年度から進めており、「浄水施設統合事業」については、平成25年３月に事業完了の予定です。

この事業は、老朽化した**豊田浄水場**を廃止して、その機能を**堀口浄水場**に統合するもので、自然流下方式による給水区域の拡大や導水ルートの二重化により、効率的で安定した給水が可能となり、一層環境にやさしく災害に強い水道が実現します。新たな100年に向けて、市民の皆さまとともに歩む水道として、これからも安全・安心な水道水をお届けします。

＜麓山の高架水槽＞

第1次拡張事業（大正12～14年度）

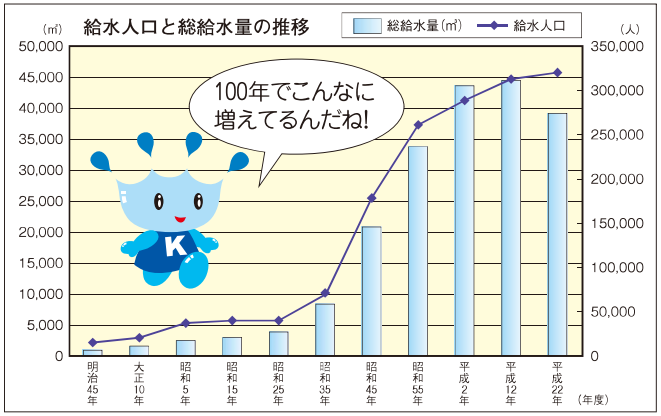
＜堀口浄水場築造工事＞

第５次拡張事業（昭和42～46年度）

＜浜路取水塔築造工事＞

＜潜水士による組立作業＞

第６次拡張事業（昭和48～54年度）



現在の浄水場

豊田浄水場

堀口浄水場

熱海浄水場

荒井浄水場